

ベンチャー 仕掛け人



横屋 俊一氏

中小企業基盤整備機構
北陸支店チーフアドバイザー

繊維をはじめ製造業が盛んな北陸三県。中小企業基盤整備機構は二〇〇五年、独自技術を生かしたベンチャー企業を育てようと北陸支部(金沢市)を設立した。専任のアドバイザーが経営支援や製品の販路開拓に乗

複数の派遣会社、人材融通

り出している。横屋俊一チーフアドバイザーに、ベンチャー育成の現状や課題を聞いた。

北陸支部が立ち上がったきっかけは、「北陸には繊維や機械などの製造業、中でもニッチ(すき間)分野で強みを持つ企業が多く、有望なシーズ(種)が多い。これまでは福井県は近畿支部、石川県、富山県は中部支部が担当していた。技術を持つ企業と、それを必要とする企業のマッチングを進めるには、情報収集などを強化するための現地拠点が必要と判断した」

専門家を派遣、改善点指摘

横屋俊一氏は45年(昭和20年)福井市生まれ。68年東北大学工学部卒業後、日本冶金工業に入社、現場で生産管理に携わってきた。その後工作機械メーカーを経て、二〇〇二年にパソコン研修やソフト開発を担うITベンチャー、ナレッジ21(金沢市)を立ち上げ、社長に就任した。

産と官結ぶ 触媒めざす

〇六年九月から中小機構のチーフアドバイザーを兼務する。「現場と経営の両方が分かる人間として、産業のニーズと官の持つ技術を結ぶ触媒になりたい」と理想の産学連携を目指し奔走している。NPO法人福井県情報化支援協会の理事長も務め、産学官に幅広い人脈を持つ。

「具体的な活動内容。改善点などをレポートにして分析する。コーディネーターは現在三千数人。川にある企業に紹介した。一方企業側も北陸にどんな技術を開発したりするなどのケースも出てきた」

「北陸のベンチャー企業育成の課題は、以前より幅広い連携ができるようになった。例えば、北陸では大学発ベンチャーが多い。ただ技術は独りでも、誰がその技術を必要とするかの把握が不足している。」

「金融機関が持つ法人顧客を相手に経営支援のセミナーを開いているが、そうした交流の中から有望な技術を持つベンチャー企業が見つかることもある。今後は信用金庫なども含め、地域の金融機関との連携をさらに進めていきたい」

(福井支局 村越康二)

録人材では対処できない円払う。人材を提供した場合、サイト上で他社に派遣会社は依頼した会社登録している人材から探から成功報酬の一部を受け取る。初年度の売り上げ目標は二億円、三年後楽プレーヤーを参考にデザイン・アイコンヒコ